

○**児童の実態と教師の願い**

子供たちに「なぜ書くのか」と問うた時に、「書きたいから書くのです。」という答えが出てきて欲しい、そんな願いの中で5学年の教員は授業づくりをしてきた。単元の始めに「書くこと」について好きと回答した児童は1/3、嫌いが2/3程であった。一方で、盛り込みたい情報が多く、引用文が長くなり、自分の考えに対して必要な情報を絞り込めずにいる児童もいる。

書くことで思いや考えを伝えたり、読み取ったりするためには、国語の正確な理解と適切に表現する資質・能力が必要不可欠である。一方で、書きたいから書くという思いをもつためには書く対象に対する思いや願いを強くもつことも必要である。本単元では、総合的な学習の時間と関連付けて気候変動・温暖化を題材にすることで、国語科の「書くこと」に関する資質能力をより育成できると考えた。

○**単元名** 調べたことを正確に報告しよう「みんなが過ごしやすい町へ」

○**単元目標**

- ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる（思B（1）エ）
- ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（知（1）カ）
- ・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思B（1）ア）
- ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思B（1）イ）
- ・粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、報告する文章を書こうとしている。（態）

○**この単元における学びの構造転換の要素**・**単元について（「児童中心」の視点）**

**時間**：調査活動等の時間は総合的な時間と関連付けることで、国語科としての学習の時間を十分に確保する。計画の段階で活動の時間配分を児童に考えさせ、重点的に取り組みたい活動に多く時間をかけることができるようにする。

**方法**（見方・考え方を含む）：児童が、調べた内容等を学習カードを使うことで対象と言葉、言葉との関係を言葉の意味、働き、使い方に着目して捉えさせたり、問い直したりすることで、調べたことを正確に報告する文章がつけられるよう仲間との学び合いを中心に取り組む。

**環境**（教室掲示・地域人材）：学習活動の行程や重要事項等を教室掲示し、自らの進捗状況を確認したり、既習を活用できるようにしたりする。また、総合的な学習の時間と関連付けながら、1学期末の「子どもと大人が話し合う会」での、「保護者地域の方への発信」という目的意識を設定した。

・**学びの構造転換の視点****課題設定の多様性のための工夫**

総合的な学習の時間の単元計画を見直し、年間を通して報告文を作成する活動を設定した。その上で、児童が得た個々の課題意識を題材に設定することで、多様な課題が設定できるようにした。

**解決の方法の選択のための工夫**

インタビューや文献検索など、多様な調査活動の中から、自己の課題解決のために最も適切な方法を選択させた。また、報告書の作成方法も紙かタブレットを選択できるようにした。

**多様な結果への工夫（教科の本質・本質的な問い）**

題材が違うため、多様な内容の報告文が作成されるが、「書くこと」に対する本質的な問いを「自分が伝えたいことを表現するためには、どうすればいいのか。」と、とらえ、この問いに児童がそれぞれの工夫を通して、自分なりの解答をもてるようにする。

**単元の学習展開と評価の計画（全10時間）**

時	学習活動・学習課題 (○付き数字は授業時数の目安)	学習評価	
		つまずきと支援 (指導に生かす評価)	総括に用いる評価 (記録に残す評価)
1 ・ 2	①報告する文章を書くことについて課題意識をもち、学習計画を立てる <b>単元を貫く課題：身の回りの環境に対する工夫について調べ、伝える報告書をつくらう</b>	発言・記述（思）	
	②身の回りの環境に対する工夫について、題材を選び、調査方法を検討する	発言・記述（思）	
3 ・ 9	③④調べる目的に応じて材料を集め、分類するなどして伝えたいことを明確にする。	記述・観察（思）	
	⑤報告する文章の構成の特徴を理解し、筋道の通った文章となるよう構成を考える。		記述・観察（思）
	⑥⑦報告したいことがわかるよう、引用するなど書き方を工夫して下書きする。	記述・観察（知）	
	⑧（本時） <b>調査報告文の下書きを読み合い、構成や展開について意見を伝え合って見直す。</b>	発言・記述（思）	
	⑨引用や図版の使い方を意識し、筋道立った文章となるよう気をつけて、清書する。		記述（思）
10	⑩調査報告文に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける。		記述（態）

**本時（8時／10時）のねらい**

- ・調査報告活動の下書きを読み合い、構成や展開について意見を伝え合って見直すことができる。

**本時の展開**

時間	主な学習活動	※留意点・評価
	<p>①本時の学習課題を確かめる。 [めあて] 下書きを読み合って意見を伝え合い、より良くなるように見直そう。</p> <p>②意見を伝え合う観点を共有する。 ■読み合うときの観点を明確にし、共有する。</p> <p>③観点に沿ってグループで下書きの文章を読み合い、意見を伝え合う。 ■意見を伝える観点がずれないように、机間指導の際に助言をしながら進める。 ■意見が自分の意図と違う場合は、自分の意図を伝え、その意図が伝わるにはどうしたらいいか相談する。 ■全てを反映させる必要はないことを伝える。目的を意識して取り入れるものを判断させる。</p> <p>④、自分の文章を見直す。 ■それぞれのグループでどんな推敲がされたかを確認し、必要に応じて全体で共有する。 ■助言を基に、再度自分で考える時間を設け、どんな修正が必要か考えるようにする。 ■必要に応じて、修正したものを読んでもらい、助言の意図通りになっているか確認させる。 ■見直しのポイントに基づいて、助言を受けた内容や自分がどう直したかを振り返り、見直すことで、どう改善されたかを確認する。</p> <p>⑤本時の学習の振り返り、次時の学習への見通しをもつ。 ■見直した文章をもとに次時に清書を作成する。</p>	<p>※事前に下書きを読み合い、見直したらよい箇所を考えておく。</p> <p>[個別の支援・指導] 相手の文章に対して、うまく意見が言えない児童には、掲示物と対応させたり、分からなかったところを指摘させたりするよう助言する。</p> <p>[思] 調査報告文の構成や展開の特徴を踏まえて、友達の下書きに意見を述べている [発言・記述]</p> <p>[思] 友だちと意見を伝え合う中で修正点を見つけ、自分の下書きを見直している。 [記述・観察]</p> <p>[態] 粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し報告する文章を書こうとしている。 [観察]</p> <p>※もとの文章と推敲した文章を比較できるようにし、視覚的に成果を確認できるようにする。</p>